

彼理日本紀行
第十八卷
全拾壹本

洋学文庫
文庫8
C 235
5



彼理日本紀行

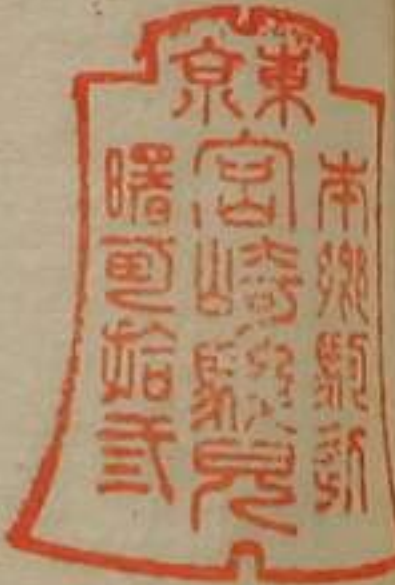
卷十八

彼理日本紀行卷之十八

平塚律藏



Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '彼理' and '日本'.



彼理日本紀行卷之十八

手塚律藏譯

彼理琉球ヨリ再々日本ニ来リレ夏跡先

合衆国日本兩國ノ官吏應接場評議ノ條

是ヨリ先亞米利加ノ水師提督彼理大統領ノ命

ヲ受テ日本ニ使ヒシ浦賀ニ於テ其書簡ヲ日本

ノ官人ニ共ヘ夫ヨリ浦賀港ヲ發シテ琉球ニ赴

ケリ彼理琉球ノ紀行ハ即本書第爾後彼理既

琉球ノ了ヲ終リケレハ那霸琉球ノ港ヲ發シテ

又日本ニ向フノ裝ヒヲ為セリ彼理ノ復日本ニ



行ハ先ニ日本人ニ與ヘシ大統領ノ書簡ノ復書
ヲ得ガ為ナリ彼理ノ未タ那覇ヲ登セサルニ先
ツテ長崎港ニ港留スル和蘭ノ官人ヨリ使ヲ琉
球ニ遣シテ書ヲ彼理ニ與ヘテ曰我日本人ノ為
ニ夏ヲ將軍彼理ヲ指ニ告ク曩時日本人浦賀ニ
於テ貴国大統領ノ書ヲ得タルノ後日本国王暴
ニ薨シ賜ヒテ嗣王未即位ノ礼ヲ行ハス旧主ヲ
葬リ新王ヲ立テ中外頗ル多夏ナリ是ヲ以テ日
本人未貴国書中期望スル所ノ了ヲ商議スルニ
暇アリテス此故ニ初約スル所ノ復書ノ期ニ及ン

テ將軍日本ニ航スルモ日本人速ニ復書ヲ與フ
ルコト能ハスレテ国内徒ニ騷擾セシ日本人深
ク之ヲ恐怖シテ貴国ニ復書ヲ與フルノ期ヲ緩
フセシメテ望メリト此時彼理和蘭ノ官吏ニ復
書シテ曰日本王ノ薨去誠ニ哀悼ムヘシ而シテ
其王薨スト雖其大臣朝廷ニ在テ能正議ヲ執リ
我合衆国ト日本トノ和親ヲ全フシテ兩國ノ平
安ヲ謀ラハ是誠ニ我天幸ナラント是ヨリ先魯
西亞ノ水師提督モ日本長崎港ニ至リ其国書ヲ
日本人ニ送りケレハ日本人之ヲ長崎ヨリ江戸

ニ送リシニ江戸ヨリ魯西亜人ニ告ル復書ニモ今国
王ノ薨去ニ由テ政府極テ憂哀ナレバ速ニ復書
ヲ出スコト能ハスト云フヲ以テス其音信新ニ
彼理ガ許ニ聞ヘタリケルニ和蘭人ヨリモ彼
理ニ書ヲ送ルニ及ンテ亦日本人ノ魯西亜人ニ
答タル辞ト同一ナリケレバ彼理其左右ニ謂テ
曰初我日本海ニ入りシ時日本王ノ疾病アル丁
ハ些モ聞サリケリ然ルニ爾後時日幾干モ無ク
シテ日本人暴ニ其王ノ薨去ヲ唱フ此哀ノ信偽
実ニ疑フベシ是必ズ日本人速ニ外国ト交誼ノ

議論ヲ決シテ返書ヲ出スコト能ハス暫ク国喪
ニ托シテ報復ノ貴ヲ塞クノ策ナルベシト彼理
自ラ以為ラク今日本国王ノ薨ストイヘルハ假
令其哀實ナリト雖官必ス吏負ヲ備ヘ哀各主者
アリ喪事ヲ營ミ外政ヲ議シ外国ノ應答何ゾ誓
滯スヘキ丁アラシヤ且日本ハ禮法制度皆悉ク
漢式ニ倣フ未タ大ニ支那ト異ナル丁アルヲ聞
ス支那ニテハ国帝殂スル時ハ高貴ノ人喪衣ヲ
服スル哀僅ニ七回トス一回ハ七七回ヲ過レハ
嗣君直ニ国事ヲ聽トイヘリ七回ハ其月日幾干

モ無シ然ルニ今日日本人国喪ト云フヲ以テ遠ク
我復書ノ期ヲ緩フセント欲ス宣欺罔ノ甚シキ
者ニ非スマト又彼理其左右ト議シテ曰ク今日
本人其国王ノ薨去ニ托シテ我ニ復書緩期ヲ告
ルハ我輩ノ其旋延ニ屈シ速ニ期望ノ達シ難キ
ヲ知り復日本海ニ来ラザラント欲レテナル
ヘシ然レ共凡ソ大事ヲ謀ルハ必ス寛裕貴速ニ
成シトヲ求ムヘカラス故ニ今我徒心志ヲ遠大
ニシ切迫ニ支ヲ謀ラス遂ニ我大志ヲ達シ遠ク
其成功ノ日ヲ待ント欲レテナリ彼理是ヨリ再

日本ニ赴キテ論セント欲スル夏件数條アリ
其第一ニハ是ヨリ先亞米利加ノ漢夫商賈漂流
シテ偶々日本海ニ到ル者アレハ日本人謾リニ
之ヲ窘苦セシメタリ故ニ彼理此事ヲ日本人ト
議シテ後未嚴ニ如此不仁ノ處置無ラントナリ
第二ニハ亞米利加人航海ノ為ニ日本國ノ兩三
港ヲ開キ船舶ノ往返ニ薪水食物ノ數品其缺乏
ニ給セント欲ス第三ニハ願クハ日本ト合衆
國ト交商レ互ニ有無ヲ通セン若日本人交商ヲ
許サバル時ハ之ニ代ヘキ他ノ大裨益ヲ合衆國

ニ興ヘント彼理今此數條ヲ日本人ニ告テ假令
此數條ノ期望悉ク達セサルモ中一條ハ必ス成
就セントノ宿志ナリ○彼理竊ニ考フルニ我詳
ニ利害ヲ説テ日本人ヲ喻シ彼ヲシテ後未閉國
ノ説ヲ止メ善ク外國人ニ遇セシメ又亞米利加
ノ鯨獵船日本近海ニ漁獵シ風波ヲ避テ本地ニ
漂着スル者アルニ當テ日本人ヲシテ厚ク之ヲ
待遇セシメンコト難カラサルヘシ然レハ我期
望ノ數條悉ク成就セスト虽此一夏ヲ達スル時
ハ之レノミニテモ今大統領ノ命ヲ奉シ萬里ノ

波濤ヲ犯シ巨萬ノ費用ヲ費シテ日本ニ來レル
功アリト思ヘリ彼理又考フルニ今上ニ述ル數
條ノ如キハ容易ニ日本人ヲシテ承諾セシムル
ヘント虽通商等數條ノ如キハ尋常ノ議論ニテ
ハ輒ク之ヲ承諾セシムベカラズ然ル時ハ我兵
威ヲ輝カシテ日本人ヲ威サバ彼必ス此數條ヲ
モ許諾スヘント虽武威ヲ以テ之ヲ威シ兵力ヲ
以テ之ヲ怯カスハ人ヲ心服セシムルノ道ニ非
カレハ至善ナル者ニ非スト又以為ラク今兵威
ヲ以テ日本人ヲ服従セシムルハ實ニ善ノ善ナ

ナル者ニ非ズト虽然レ共又唯々柔弱ノ議論ヲ
以テ日本人ニ接スル時ハ彼謾リニ誓滯シテ速
ニ決意スヘカラザレハ我カ真意ニ非スト虽已
コト得ス兵威ヲ假テ日本人ノ決議ヲ促サント
彼理又案スルニ若シ今日本ニテ亞米利加ノ商
船漢船ノ為メニ海港ヲ閉リ了ヲ許サズンハ之
ニ次テ先ツ大琉球島ヲ掠畧スル策ヲ為サン若
此島ヲ掠奪シ得ル時ハ他日已克ヲ得ス兵ヲ日
本ニ加フル時ニ當テ此大琉球ヨリ軍艦ヲ日本海
ニ出サハ百隻極テ便ナルヘシト是故ニ彼理琉

球ヲ那霸港ヲ登レ日本ニ赴カントスルニ先テ
部下ノ將二名兵卒十五名ヲ亞米利加ニ返レ彼
理日本國ヨリ大統領ノ復書ヲ得ザル内ハ琉球
島ニ在テ莫ヲ謀ラントイフ了ヲ告シメタリ○
原来日本ト交通シ琉球并セントスル了ハ特リ
亞米利加合衆國ノミニ非ス魯西亞佛蘭西英吉
利斯ノ諸國モ皆此宿意アリテ共ニ其先鞭ヲ爭
了了既ニ久シカリシヲ彼理今大統領ノ命ヲ奉
シ魯英佛ノ三国ニ先ツテ日本國ニ來着セシ了
ナレバ其期望ヲ達セル時ハ心ニ誓テ再々亞國

ニ歸ル^ナナカラントス是故ニ若シ日本ニ於テ
復書ヲ出ス^ナラ急ラハ幾ク歳月経ト^ニ琉球島
ニ淹留シテ必ス此夏ヲ遂ント思ヘリ○彼理大
琉球ヲ掠畧セント欲スルノ志アリト^ニ此行ニ
大統領ヨリ命セラレタルハ唯日本ノ一夏ノミ
ニテ琉球ヲ攻ル^ナハ其命ヲ受ズ且其水軍モ唯
日本行ニ防守ノ兵士ノミニシテ外国ヲ攻伐ス
ヘキ軍艦ノ設ケナリ又琉球人合衆國ノ衆人ヲ
待遇スル甚ク恭順ヲ盡シケレハ彼理モ此行ハ
敢テ琉球島ニ此モ寇セザリケルナリ是ヨリ先

彼理部下ノサ^カラトカ^船名^船ヲ支那ノ上海ニ送り
タリケレハ此船ノ上海ヨリ歸ルヲ待テ共ニ日
本海ニ到ラント欲シ之ヲ候ツコト数日ニ及フ
ト^ニ此船那霸ニ歸着セ^ス是ニ於テ彼理具衆ニ
謂テ曰クサ^カラトカ^船未^未着セ^スト^ニ此近日本港
ニ来ルヘシ今我カ船那霸ヲ發セハ必ス近海ニ
テ相逢ベシト是ヨリ部下ノ船隊ヲ引テ纜ヲ解
キ那霸ヲ發シケレハ果シテ数里ニ過ズ渺茫タ
ル洋中遙ニ一毫ノ白帆ヲ認ム漸ク近ツキテ之
ヲ看ハ則チサ^カラトカ^船ナリ是ニ於テ彼理サ^カ

トカノ船將ワルゲルヲ呼テ之ヲ慰勞シ即時ニ
本船ト共ニ江戸海ニ發スルノ命ヲ傳フ此時ワ
ルゲル上海ヨリ齎シ来レル食料等ノ數品ヲ悉
ク彼理ニ呈シ且日本ニ送ルヘキ器品ヲ收メタ
ル三個ノ行李ヲ彼理ガ船ニ移シ琉球海ヨリ東
方ニ針路ヲ取り彼理ト共ニ江戸海ニ赴キタリ
○亞米利加ノ船隊江戸近海ニ至ル迄ハ海上平
穩ニシテ細浪起ラス諸船安全ニ其船路ヲ進ム
江戸近海ヨリ琉球地方ノ形勢ヲ眺望スレハ豆
州大島ヨリ始マリテ其餘ノ衆島或ハ遠ク離レ

或近ク連リ其通線斷續シテ遙ニ琉球ノ群島ニ接
セリ此大島ヲ支那ニテタトウ按スルニ大島ノ唐音ト稱
ス此時船中ヨリ一望スレハ徳島及テ鬼界島等
ノ形勢モ判然トシテ眼中ニ明ナリ又此時彼理
詳ニ大島ノ西岸ノ地形ヲ検査シ佛蘭西ノ船將
ゴイレン氏嘗テコルヘツトノ船種ナビン名船ニ乗
リテ日本海ニ来リシ時クレラヘトウト名ヲ下
セル島嶼ノ形勢ヲモ探索シタリ○初彼理亞國
ヨリ日本ニ赴カントセシ時海軍ノ某氏彼理ニ
謂テ曰ク將軍彼理ヲ指日本海ニ到ラハ其海濱

及々島嶼ノ形勢ヲ能ク詳ニ検査シ歸ルヘシト
是ニ於テ彼理其言ヲ追思シケレハ益務メテ島
嶼ノ形勢ヲ検査セリ今爰ニ海濱及島嶼ノ形勢
ヲ密ニ検査スルハ他日若日本人ト戦闘ヲ起シ
亞米利加ヨリ兵ヲ日本海ニ出ス時ニ至テ甚ク
益アラシク謀レハナリ○彼理既ニ此諸島ヲ
詳ニ検査シヌレハ其形勢ヲ紙上ニ模寫シタリ而
シテ其地位ヲ測リシニクレヲペトラト云ヘル
小島ノ南隅ハ北緯廿八度四十八分東經百廿八
度五十九分三十秒ニ在リ又大島ノ北隅ハ北緯

廿八度廿九分東經百廿八度ニ在リ此大島ハ三宅
島ト相接シテ日本海邊ニ在ル諸島ノ最大ナル
者タリ大島ト三宅島大琉球ノ三島ハ日本所轄
薩摩ノ君主ニ領セララル、トト者ユレ共未ク其
餘ヲ詳ニスルニ遑ラス○彼理嘗テ和蘭人失
勃爾多氏ニ傳ヘ聞タルニ此薩摩ノ君主ハ領地
ヨリ毎載二百廿四万ギユルテ^{名貨}名貨ヲ欽メ又琉
球ヨリ毎歳八百九十万ドル^{名貨}名貨ヲ納ムトイ
ヘリ○三宅島ハ外国人ノ屢檢出セシ島ニシテ
前キニ亞米利加浦賀ニ到リシ時ニモサラトカ

船屢此島ヲ檢索シタリシ○西洋紀元一千八百
五十四年弟二月十一日彼理軍艦ヲ以テ江戸ノ
外港ノ按スルニ小田原邊ニ入ント欲セリ此
海灣中ノ西方ニ當テ中津呂港アリ東方ニ白濱
港アリ又北方ニ小田原鎌倉ノ諸地及ヒ相模岬
アリ彼理此灣中ニ入ントセシ時偶々東北風烈
ク吹来リ遂ニ此灣ニ入コト能ハス大島ノ島陰
ニ軍艦ヲ繫キテ此風難ヲ遁レタリ此日亞米利
加ノ軍艦大島ノ地方ニ往シニ其途中ナル海面
ニ一二丈可ハカリノ巖石水面ニ露ハレ横ハリタル者

アリケルヲ彼理ガ軍艦徑チニ其前ヲ過リタリ
若レ此軍艦其巖石ニ觸レタランニハ忽チ粉碎
スベカリシヲ誠ニ危フカリケル状體ナリ此巖
石ハ日本沿海ノ地圖ニフクトントン。口ツカノ巖
ノ種類ト称シ書キ載タレ共是ヨリ先キ歐羅巴
人及ヒ亞米利加人モ此沿海ヲ航海セシニ満潮
ノ時ニモアリケン遂ニ此巖ヲ見タリシト云
ス然ルニ今彼理始テ此巖ヲ檢出セシニ縦横ニ
算へ出テ、實ニ船路ノ險難ナリ又外國人ノ今
日迄更ニ此巖ヲ見ザリシハ西洋人日本沿海ヲ

航海スルニ多クハ其東南ニ針路ヲ取テ此辺ヲ
經過セザリシガ故ナリ○日本人ノ写シタル日
本地圖アレ共此番ニハ第一ニ日中線ナク陸地
ノ大小廣狹ヲ察スルノ微ナリ又海水ノ浅深ヲ
知ルヲ能ハス故ニ此地圖ハ唯々僅ニ日本人ノ
自用スルニ足ルト云之ヲ外国人ニ施シテ世界
中ヲ航海スルノ具ニハ備フヘカラザル者トス
○日本人ハ原来怯懦ニシテ航海ノ術ニ拙シ是
故ニ已ム事ヲ得ザル丁アルニ非サレハ其国地
ヲ離レテ航海スル丁ヲ欲セス而シテ其航海ハ

唯々其沿海ニ限りテ大洋ニ航スル丁能ハス僅
ニ海岸ニ沿テ島嶼ヲ廻リ港灣ヲ傳ヒ其行路數
時ヲ経レバ則チ碇泊スル湾口ヲ求ム航海ノ間
一晝夜碇泊セザル丁ハ實ニ甚ダ稀ナリケリ○
日本人ノ航海ハ時日ヲ撰テ晴雨ヲ計リ風波ノ
穩ナルヲ待テ其航ヲ出シ常ニ港灣ヨリ港灣ヲ
求メテ船路ヲ取り若シ暴風ニ逢フ時ハ徑ニ港
灣ニ入テ以テ風難ヲ避ルヲ常習トス日本海ノ
港灣ハ通常狭小ニシテ小船其中ニ入り風難ヲ
避ルニ便ナリ而シテ日本ノ大船ト稱スル者モ

船脚ノ水中ニ没入スル大約八尺可ナリ之ヨリ
深ク没入スル者アルナレ又日本国ノ船將舟
師等ハ常ニ能ク其沿海ノ形勢港灣暗礁等ヲ暗
記シテ航海ノ時ニ臨テモ別ニ精密ナル地圖ヲ
携ヘ之ヲ按スルナラ要セズ故ニ此国ニハ航海
携フベキ精密ナル地圖ナキナト察セラル固ヨ
リ其沿海モ狭小ナレハ之ヲ暗記スルモ亦容易
ナルベシ○第二月十二日ノ朝ハ風波漸ク平穩
ニシテ朗晴ナル好天氣ニ變レケレハ彼理又軍
艦ヲ出シテ江戸ニ赴キタリ却説彼理相州ニ近

ツキテ其海岸ヲ眺望スルニ沿海密峯等ノ形勢
ハ依然トシテ容巖ニ似タレ其容巖此地方ニ未
リシ時ハ方ニ盛復ニテ方今ハ陽春ニ移リタル
ヲ以テ地勢ハ曰ニ異ナラスト虫風景ハ自ラ容
巖ニ異ナリ容巖富士ノ絶頂ヲ見シ時ニハ僅ニ
一抹ノ雪ヲ残セシノミナルニ今ハ此高山悉ク
白雪ニ埋メラレテ一點ノ青色ヲ顯ハサズ其形
容恰モ白衣ヲ着タル者ニ髣髴タリ又海岸無数
ノ土地モ去復ハ草木青々トシテ一段ノ好景ナ
リシニ今ハ殘冬ノ寒光ヲ帯ヒテ土地皆旧時ノ

青色ヲ失ヒ而シテ其近山ハ草木未タ緑葉ヲ生
セス連峯層巒多クハ其頂ヲ露シ又其遠隔タ
高山ハ尚去冬ノ残雪ヲ戴キ万峯皆皚々ナル白
頭ニ遠近ノ風煙ヲ鎖シテ寒光其中ニ殘苗セリ
既ニシテ此日天氣甚タ寒冷ニ變ス彼理其近海
ニ於テ二隻ノ亞米利加船ヲ認メ得タリ漸ク近
ヅキテ之ヲ見レハ則チ亞國ノマセトニシト
ハンダレー船共ノ兩船ナリ時ニハンダレーノ
長官ポープ氏彼理ニ告テ曰ク前日マセトニ
ン船江戸浦賀ニ向テ入ントセシニ其船誤テ暗

礁ノ淺所ニ入り淤泥ニ膠シテ進退スル丁能ハ
ス是レ全クアボツトマセトニ長官ノ氏唯夕和
蘭人失勃尔多ガ地圖ヲ信シテ海水淺深ノ測量
ヲ詳ニセス謾リニ海岸ニ近キ其船ヲ進メタル
過失ノ致ス所ナリ失勃尔多ノ日本地圖ハ原来
日本人ノ著作ノ謄写セシ図ナレバ其記說精密
ナル者ニ非スト又曰ク此船既ニ泥土ニ膠シタ
ルカ故ニ大炮ニ強藥ヲ装レ之ヲ放テ其藥力ヲ
借り以テ泥中ヲ脱出シテ謀リタリ之ニ由ツ
テ余モ亦小舟ヲ送リテ其莫ヲ助ケレメタリト

○彼理此報ヲ得テ即時ニミッシスシッロ号船ト
イヘル蒸気船ノ長官レ^レ氏ニマセドニ^ン船
ヲ救フベキ^トヲ命シケレバ^レ氏徑ニ其蒸気
船ヲ進メテ之ニ近ツキ已レガ船ヨリ繩鎖^{ツナ}ヲ傳
ヘテマセドニ^ンニ繫キミ^ツシス^ツヒノ蒸気
ヲ熾ンニシ此船ヲ以テマセドニ^ンヲ引シメ
ケレハ蒸気ノ勢カヲ借テマセドニ^ン船忽チ泥
中ヲ脱シ僅ニ大害ヲ免レタリ此日午後ニ至リ
テ彼理ノ帥ヒタル諸軍艦ヲ^レキシント^ン船ト
一所ニ會合セシメ本夜ハ此所ニ碇泊シタリ^レ

キシント^ン船^ハ原来マセドニ^ン及ヒハンダ^レ
ト船ト同時ニ那霸港ヲ登セシ船也○此日夜ニ至テ
ワウハント^ン船^{共ニ}船ノ長官ボイル氏ヨリ小舟
ヲ彼理カ船ニ送^リワウハント^ン船ハ前二日江
戸港内^アメリカン^ノアシコロエ^ト云ル所
ニ来着セル船ナリ○マセドニ^ンノ泥中ニ膠
セシ時日本人ヨリ使ヲ以テ其吏ヲ^ツウハント^ン
船ノ長官ボイル^ニ告シメタリ之ニ由テ此時^ホ
イルモ亦其舟ヲ遣シテ之ヲ救シメタリ○亞米
利加人ヨリ考^レレバ日本人今マセドニ^ンノ難

ニ遭タルヲ見テ速ニ使者ヲ我ニ送リ數里ノ海路ヲ
遠トセズレテ此夏ヲ告来リ又其夏次ニ石炭若
干ヲ運輸シテ我ニ送リ是ニ由テ之ヲ觀ルニ日
本人モ稍懇切ナル所アリ又我徒ヲ畏テ少シク
諂諛セント欲スルノ心アルニ似タリ却説マセ
ドニ一ノ船既ニ其難ヲ免レケレバ彼理六隻ノ軍
艦ヲ帥スユスコイハンナ^ハポー^ハタニミツミス
レツヒ三隻ノ蒸氣船^ニレキレントン^ハンダ
レ^レマ^ドニ^一ン^ニ以上^共ノ三船以上六隻ヲ一
字行ニ連テテ江戸海ニ進ミタルニ此沿海ハ去

年浦賀ニ来リニ時稍々測量セシ所ナルバ新ニ
之ヲ測量スルノ勞ナク且微恙ナク諸船ヲ進メ
テ江戸海灣ニ達シ夕リ此時亞米利加船ノ左^ノ辺
ニ當リ相州ノ海岸陸續トシテ相接ニ時季未ク
早春ナレハ其風景十分ノ寒光ヲ帯ヒ遠山ハ連
峯高低ヲ交ヘテ多クハ白雪ヲ巔キ加之富士ノ
一峯屹然トシテ高ク雲外ニ聳ヘ浮雲其巔ニ来
往セリ右邊ニハ安房ノ海濱遙ニ遠景ヲ呈ス而
シテ其海岸ニハ村落人家共ニ稠密ニ内地ニハ
高低ノ諸山相連接セリ去歲此諸山ヲ眺望スレ

草木繁茂シテ山色青々タリシカ今ハ皆枯荒
シテ淒涼タル風色ナリ遙ニ南西ニ頭ヲ回セバ
栗濱ノ地方模糊トシテ眼裡ニ入ル此地ハ去年
彼理大頭領ノ書簡ヲ日本人ニ與ヘシ所ナリ又
遙ニ眼ヲ極ムレバ浦賀岬モ眼下ニ在リ而シテ
此岬上ニ一坐ノ砲墩ヲ設ク此岬ヨリ日本ノ番
船數隻馳来リ亞米利加船ニ近テ復去年ノ如ク
我船ヲ遮攔シント欲スルニ似タリ此時彼理令
ヲ下シテ日本船ヲ驅逐シ少時モ船行ヲ滞ル
ナク整々トシテ一字行ノ船隊ヲ為シ飛丸ノ如

ク内海ニ進ミケリケレハ日本ノ番船遠ク其後
ニ後レ急ニ尾行シタレ共遂ニ之ニ及ブコト能
ハザリケリ此時彼理ガ脚ヒ来レル軍艦六隻并
ニ彼理ニ先ツテ来レルソウハントニ船ト共ニ
七隻アノリカシ。アソコルエト去歲彼理ガ名ニ
名ニ鎗ヲ投シテ此地ヲ碇泊所ト定ム此アソコ
ルエトデハ海岸ニ突出セル兩岬ノ間ニ在テ西
方ノ海岸ヲ距ルテ亞米利加里法ニテ計ルニ大
約十二里亦浦賀ヲ距ルテモ之ニ同シ江戸ノ都
府ヲ距ルテハ稍々遠クシテ大約廿里可ナリ○

此日彼理途中ニテペルリ島ヲ過リタリ島トイ
ヘルハ去歲彼理日本海ニ入り一島ヲ見テ其風
景ノ秀麗ナルヲ愛シ已レガ名ヲ以テ命シ
タリ此島去歲草木鬱蒼トシテ海岸ヲ覆フタ
リシガ今ハ樹木荒落シテ島中ノ陣營ヲモ露セ
リ○大津英ニ鳥ヶ崎ノ村落海中ニ突出シテ樹
木之ヲ掩フ莫ナシ其人家ハ皆茅屋ニシテ屋上
或ハ草ヲ生シ實ニ朴野ノ風景ナリ○彼理ア
コルエーゲニ錨ヲ卸セシ時日本番船ニ隻漸ク
彼理カ船ニ達シ應接ノヲアルヲ以テ彼理ガ船
中ニ乗シヨク告ク此時彼理日本番船ノ士官高

貴ノ官人ナラサルヲ察シテ之ヲホトバタニ船
ニ入レ自ラ相接スルヲ欲セス乃其屬將阿舟
ニ命シテ此官吏ニ應接セシメタリ彼理ノ阿舟
ニ告テ曰ク汝日本官吏ニ應接スルニハ只夕能
ク日本人ノ言フ所ヲ聞テ仔細ニ之ヲ記シ遺却
スルヲナカレ又謾リニ我ヨリハ何莫ヲモ彼ニ
告ルヲ要セスト是ニ於テ阿舟其命ヲ受ケ通
辨官黙察斯微爾別謨波爾等漫人名及ヒ水軍提
督ノ書記官彼理ニ水師提督ト日名等ト共ニ日本
人ニ日本人ニ應接セリ此時日本ノ官吏ハ黒川

嘉平トイヘル者ニテ通詞二人共ニ監察ノ属吏
三人ヲ携へ来リ此通詞ハ去年應接ノ時ニモ
出タル者ナリ三人ノ属吏ハ皆ナ麗色ノ服ヲ著
シタリ是ヨリ亞米利加人日本人ト對話ニ及ヒ
ケルニ日本人雜話ヲ為シ而シテ後今日應接ノ
緊要ナル辭ヲ述タリ是ハ應接ノ全体ヲ示ス所
タリ應接ノ初ニハ亞米利加人日本人ニ向ヒ
去年我徒来船ノ時香山栄左工門ニ屢々交接セ
シガ香山氏今ハ何等ノ一ヲ為セルヤ杯ト香山
ノ一ヲ尋子シカバ日本人此時香山栄左工門ハ

不善者ナル夏ヲ告タリ日本人今如此告ルト虫
栄左工門ハ良人ニテ水師提督ニ愛敬セラレタ
ル人ナリ是ヨリ日本人亞米利加人ニ舟楫諸器
械ノ夏及ヒ亞船再来ノ一等ニ就テ許多ノ問ヲ
為セリ談話數刻ノ後^後日本人ノ曰ク我徒今日茲
ニ来レルハ他ノ故ヲルニ非ス水師提督ヲ浦賀
港ニ歸ラシメシガ為ナリ浦賀ニハ我カ高官員
下等ト應接ノ任ヲ受テ提督ヲ待ツハ既ニ久シ
宣シク速ニ軍艦ヲ彼ノ地ニ返スヘシト是ニ於
テ阿丹之ニ答テ曰ク此等ノ一ハ我カ提督ノ決

こテ兼諾セサル一ナレハ之ヲ告ルモ實ニ重餅
ノ変ナリト日本人之ヲ聞テ又曰ク今ヨ國王新
ニ命ヲ下シ貴國ノ一ノミニ非ス然テ外國人ニ
應接スル一ハ皆之ヲ浦賀ニ於テスベシト定メ
タリ提督若シ之ヲ兼諾セサル時ハ則チ兩國應
接ノ地ナシトナリ此時阿丹又曰ク我カ提督ハ
此地ノ海岸ニ於テ日本最高ノ官人ト交接セシ
ト望メリ何リ浦賀ニ歸ルベキヤ若シ貴國ニ
於テ浦賀ヲ除ノ外ニ外國人ト應接スルノ地ナ
シト言ハハ我カ提督徑ニ諸隊ノ軍艦ヲ引テ江

戸海ニ深ク進ミ入り江戸ニ於テ應接セントノ
主意ナリ何リ遙遠ナル浦賀ニ歸ルヘケシヤト
阿丹今如ク此烈シキ答ヲ為シタレ共此時ハ尚
禮義ヲ正フシテ日本人ニ接遇セリ然レ共此應
接ヲ終テ後ハ新ニ慇懃ナル辞ヲ竭シテ日本人
ヲ慰メタリ本日日本人阿丹ノ為ニ烈シキ辞ヲ
以テ十分論破セラルト虽日本ノ官吏等ハ少
シモ憤激ノ色ヲ顯サズ又慚愧タル体モ無ク頗
ル恭シク寒暖ヲ述ヘ歸リタリ○翌日又日本ノ
官吏亞米利加船ニ来リヌレハ彼理又昨日ノ如

ク阿丹ヲシテ之ニ對遇セシメ且本日應接ノ次
序ハ彼理皆十之ヲ計リ阿丹ニ教ヘタリ本日又
兩國ノ人負共ニ應接ニ及ヒヌレバ日本人先ツ
云フ我國ニテ決シテ貴國ノ人ヲ輕蔑セントノ
意ニ非ス尤モ禮敬ヲ尽シ貴國ノ人ヲ待遇スヘ
キ意ナリトイヘルヲ屢々阿丹ニ告ケ又日本
高貴ノ官人兩三日ノ中ニ相見ントノ設アリト
イヘリ此時阿丹之ニ答テ曰ク然ラハ貴國ノ高
官何ノ処ニテ我提督ト相見ント欲スルヤト日
本人鎌倉ニ於テ相見ント答ヘケレバ阿丹大ニ

驚キテ曰ク昨日是下ノ辭ニ浦賀ノ外ハ日本ノ
地ニ於テ外國人ト應接スルノ地ナシト云ヌヤ
然ルニ今又鎌倉ニテ相見ントイヘルハ何ソ其
説ヲ變スルノ速カナルヤト○原來日本人ハ地
點ニシテ詐偽多ケレハ此時日本ノ官吏自若ク
ル顔色ニテ答ヘケルハ我ニ於テ少しモ説ヲ變
シ言ヲ食ニ非ス初ヨリ我力國王提督ノ可否ヲ
云ニテテ慮リ唯タ一地ヲ定メ置ク時ハ提督ノ
之ヲ承諾セサルニ當テ兩國ノ應接決セザルヲ
以テ先ツ提督ノ為ニ此兩處ヲ換ヒ置タルナリ

敢テ我ニ在テ前説ヲ変スルニ非サルナリト○
録倉ハ江戸海ノ外灣ニ在テ前キニマセドニ
ニ船ノ淺所ニ膠セシ所ナリ亞米利加里込ニ世
里可ヲ隔タル地ナリ抑々録倉ノ地ハ彼理嘗テ
此灣ニ碇泊セシマリシヲ碇泊ノ為ニ甚ク便
ナラス又日本ノ都府江戸ニモ遠ク百事不便ノ
所ナリ又彼理日本官吏ノ辭ヲ察スルニ録倉ニ
外國人ト對遇スルノ地トイヘルハ必ス詐偽ナ
リ是ニ於テ彼理又阿丹ヲシテ日本官吏ニ答ヘ
シメテ曰ク録倉ノ灣ハ船ヲ繫クニ便ナラス又

都府ニ遠クニテ百隻不便ノ地ナレハ我提督決
ニテ録倉ニテ應接スルヲ欲セヌ而シテ浦賀
ニ提督ノ好マサル所ナレバ宜シク我カ為ニ別
ニ應接ノ一良地ヲ換フベシト此時日本人イヒ
ケルハ此處ハ暫ク閣テ足下等先ツ一夕ヒ浦賀
港ニ歸ルヘシ浦賀ニハ高貴ノ官人アリテ貴國
ノ船ヲ待ツヲナレハ亦應接ノ術モアルヘシト
此時阿丹ハ水師提督ノ書記官彼理ニ命シテ提
督彼理ガ船ニ行テ應接ノ支情ヲ告シナタレハ
提督ノ曰ク我レ誓テ浦賀ニ歸ラス日本官吏尚

此等ノ説ヲ主張セハ此分ニテハ止ヘカラヌ是ハ
閣ヲ我ハ此所ヲ一步モ退ク_レヲ欲セヌ然レ共
阿丹ヲシテ此近鄰ノ海岸ニ遣ヒ應接セシムル
ハ敢テ拒ムニ非スト至阿丹ニテモ遠ク浦賀マ
テ遣スハ肯シ難シ我ハ誓テ此地ヲ一步モ退ク
_レヲ欲セヌ汝行テ宜ク我意ヲ阿丹ニ告クヘシ
ト○提督ノ書記官彼理提督ノ意ヲ以テ詳阿丹
ニ告ケレハ阿丹其意ヲ通辨官波吹漫ヲシテ
蘭語ニ訳シ日本ノ通辭掘辰之助ニ告シメタリ
亞米利加人ヨリ如此烈シク應接シヌレ共日本

人ハ尚頗然ト浦賀行ノ説ヲ固執シテ頻ニ亞船
ヲシテ浦賀ニ歸ラシメニ_レヲ告タリケリ却_カ説
日本人尚反覆シテ浦賀ノ交ヲ唱フルヲ以テ阿
丹其際限ナキヲ慮リ日本人ニ謂テ曰敢テ_ハ言
ヲ費ス_レ勿レ敢テ_ハ言ヲ費ス_レ勿レ我提督誓
テ浦賀ニ歸ル_レナシ謾リニ無用ノ言ヲ累ヌレ
ハ恐クハ貴國ノ為ノ利ニ非スト夫ヨリ兩國通
辨官又應接シ然ラハ提督ハ閣キテ先阿丹ト此
傍_ニノ海岸ニテ日本人ト一タビ應接スヘキ交
ニ一決セ_レ是ニ於テ通詞徳十郎其意ヲ日本官

吏ニ報シケレハ日本官吏之ヲ聞キ直ニ徳十郎
ヲシテ亞米利加人ニ謂テ曰ク此亞米利加人決スヘカ
ス去年提督浦賀ニ隣スル粟濱ニ於テ大統領ノ
書ヲ我ニ與ヘシニ非スヤ去年ハ浦賀灣内ニ於
テ應接シ今年ハ浦賀ニ於テ應接スルヲ能ハス
トイヘルハ何ヲヤト阿丹徑ニ之ニ答ヘシメテ
曰ク我提督浦賀ニテ應接スルヲ欲セス江戸ニ
於テセントイヘルハ實ニ許多ノ縁故アルヲナ
リ公等未之ヲ知サルヘシ先第一ニ之ヲ云バ浦
賀ノ港内ハ船艦ヲ容ルニ極テ不便ナリト此時

亞米利加人應接ノ形勢稍激烈ニ涉リ若シ止ム
莫ヲ得ガハ爾時ニ至ラハ兵端ヲ開ント欲スルノ
憂義ニ見ヘケルガ故ニ日本人其機ヲ察シ恐怖
シテ亞米利加人ニ答ヘケルハ原来日本ニハ唯
懇情ヲ以テ外国人ト和親セント欲スルナリ敢
争鬪ヲ好ムニ非ズ貴國ニテモ尚和親ヲ謀ラン
トノ意ナルヤト其形容甚痛心シタル体ニゾ見
ケル此時阿丹我ニ在テモ貴國ト同ク敢テ争鬪
ヲ好ムニ非ズト答ヘシメタリ是ニ於テ日本人
ノ曰彼理此海岸ニテ我高官ト應接セント欲セ

ハ我高官速ニ傍辺ノ海濱ニ来リ應接セシト阿
丹曰然ラハ高官提督ノ船中ニ来ルヘシ船中ニ
テ假ニ應接スルニハ提督自ラ之ニ交會スルニ
敢テ害アラスト日本人ノ曰ク此更決シテ整ニ難
シト亞人ノ曰ク嘗テ聞ク日本國ニテ大更ヲ議ス
ルニハ皆之ヲ都城ニ於ラスト然レハ今提督深
ク江戸港ニ入り其都城ニ上陸シテ更ヲ議セシ
然ル時ハ百更忽テニ辨シテ彼我ノ煩勞アル
ナカテシト日本人之ヲ聞テ大ニ驚テ曰江戸ニ
於テ貴國ノ人ト應接スルハ決シテ恨フヘカ

ラスト○日本人又曰貴國人小舟ヲ出シ處々ノ
海岸ヲ測量シ武ハ又彼此ノ地ニ上陸スルハ實
ニ暴ナルナリ眞ノ貴國ニテ之ヲ禁止スヘシ
ト亞米利加人ノ曰ク此等ノ更ハ貴國ト永何ノ約
定セルナク無ケレハ今改テ之ヲ禁止スルハ
告ケ来ルヲ要セス然レ共此更ハ誠ニ我提督ニ
告ヘシト是ヨリ亞人洋酒茶茗餅及ヒ砂糖ナド
ヲ出シ以テ日本人ヲ饗待セシ時ニ日本人ノ曰ク
貴國人ト應接ノ地ヲ撰フニハ大約五六日ヲ費
スヘケレ共速ニ議論一決セハ倅ニ之ヲ貴國ノ

船中ニ報スヘシト是ニ於テ日本人別ヲ告テ歸
リ去リケリ○亞米利加人小舟ヲ出シ處々ヲ探
索測量セリトイヘルヲ我船隊アシコルエーテ
ニ來着コト後第ニ日ヨリ彼理屬將コウレ氏ニ
命シ小舟ヲ以テ近隣ノ淺深ヲ測リ且海岸ノ形
勢ヲ窺ハシメケレバ日本ノ番船敢テ之ヲ禁止
セスト雖唯亞米利加小舟ノ前後ニ顯ハシ或ハ
左右ニ出テ我測量ノ体ヲ撿セリ日本人ハ海岸
測量ヲ忌ミ畏レテ亞人ニ告ケ之ヲ禁セシメシ
ト欲スレ共原來海灣ニ入テ淺深ヲ測リ島嶼ヲ

過テ其形勢ヲ窺フハ航海家ノ常法ナリ且彼理
今日測量スル時ハ若レ他日更アリテ軍艦ヲ日本
ニ出スト又高船ノ往返等ニモ甚ク便ナルヲ以
テ必ス此沿海ヲ測量ヤンテ欲セシナリ今日
本人百方難支ヲ述ヘ測量ヲ禁ヤント欲スト亞
亞米利加人ノ激烈ナル應接ニ壓レテ遂ニ皆亞
人ノ説ニ從隨セリ○第二月十四日天氣快晴ナ
レ共海風尚寒ク日本陸上ノ景色モ舊臘ノ寒氣
ヲ含ミ遠山ノ白雪皚々トシテ寒煙尚其麓ヲ鎖
セリ○第十五日ノ話且日本ノ官吏船中ニ來レ

リ蓋シ應接ノ地ヲ定メタルヲ報ルナラント思
ヒレニ大ニ齟齬シテ日本^人水師提督ノ病アル
ヲ聞テ具存^イ間ノ為ニ来レルナリ時ニ彼理ガ
病既ニ全ク癒タリ日本^人亞米利加人ニイヒケ
ルハ船中薪水食料等ノ財用乏シカラスヤ若^ク缺
乏ノ品アラハ之ヲ贈ラント亞米利加人答ヘケ
ルハ今日ニ在テハ薪水等未^タ不足ノ品ナシト虽
懇意ヲ示サル、^モ更ナレハ近日莫^ク類及ヒ鶏卵野
菜ノ類ヲ送り賜ハン^ト請フト^{ホノマ}請フト日本^人
今此等ノ更^ラ告ケ来レルハ必ス我徒ノ上陸シ

テ乏レキ物ヲ求メン^トヲ忌ミ畏レ彼^レヨリ豫メ
我^ガ缺乏ノ物ヲ問ヒ之ヲ與ヘテ不足ナカラシメ
以テ上陸ヲ防カン為ナルヘシ又亞米利加人ノ
曰ク我ヨリ此數品ヲ請フト虽決シテ之ヲ豪奪
スルニ非ス其值ノ如キハ速ニ之ヲ償フヘシト日本^人
人ノ曰ク我ヨリ此更^ラ報レヌレバ決シテ物ヲ沽^ウ
ンガ為ニ非ス唯^ク懇親ノ情ヲ以テ船中財用ノ缺
乏ヲ助ケント欲シテナリト亞米利加人ノ曰ク我
若^シ物ヲ受ルニ於テハ必ス其值ヲ償ハント又阿
丹日本^人國王ノ薨去セリトイヘル真偽如何ト疑

ヒ屋タレハ今之ヲ探リ試ルノ好機會ナリト思
ヒ日本人ニ問テ曰、先ニ日本國ニテ最高官ノ人
物故ニ賜ヘリト聞キタリレガ此莫果レテ然リヤ
否ヤト日本人曰、實ニ然リ阿丹又曰、高官ノ人ト
ハ何ノ官爵ナルヤ日本人曰、其人ハ公爵ナリ阿
丹之ヲ聞テ日本人此公爵ノ人ノ物故ニタルヲ
國王ト偽リ如此ノヲ設ケテ外國ノ報答ヲ緩
クセントノ計ナラント思ヒタリ是ヨリ日本人
又一兩日ヲ期シテ船中ニ來ラントイヒテ歸リ
行ケリ○亞米利加人以為ラク日本ノ官吏兩三

日ノ内ニ來テハ必ス提督ノ病ヲ問ヒ薪水ヲ我
ニ送ラント云ヒ又應接ノ地ハ必ス浦賀ニ定リ
タリト云ナルヘシト果シテ十八日ニ日本ノ官
吏船中ニ來テ曰、今我、高官既ニ浦賀ニ行テ提督
ヲ待テリ願クハ提督浦賀歸ラントテ請ト是ニ
於テ亞人ノ曰ク此莫ハ前日ヨリ屢々述レ如、兼
諾スヘカラスト且阿丹彼理ノ書ヲ取テ日本官
吏ニ與ヘタリ其文曰ク

合衆國蒸氣軍艦ポーターハタンニ在テ

紀元千八百五十四年第二月十八日江都港ア

メリカン〇アンコルエーヂニ於テ之ヲ記ス
合衆國水師提督彼理敬白
西洋諸州ニ在テ外國ノ使節ニ對遇スルニハ
必ス其都府ニ於テス是故ニ余モ亦此例ニ效
ヒ必ス江戸ニ於テ對遇セント欲ス原来船舶
ハ必ス港灣ノ堅固ナル地ヲ撰ンテ之ニ錨ヲ
投ス其地堅固ナラサル時ハ船舶ヲ留ムベカ
ラス浦賀港ハ船舶ヲ留ルニ堅固ナラサル港
ナレハ我戰隊決シテ浦賀ニ歸ル丁ヲ欲セス
而シテ又アンコルエーヂニ淹留スヘキノ意

ナレ是ヨリ船ヲ進メテ江戸ノ港内ニ入ヘシ
此港内ハ我船ヲ留ルニ極メテ便利ナリ又日
本ノ高官ヨリ相當ノ官吏ヲ此近海ニ送り我
裨將阿當ト交會セシメ某日某時某地ニ於テ
日本ノ高官亞米利加ノ使節ト會セントスル
丁ヲ相議スヘシ而シテ其官人阿丹ト會議セ
ン丁一決セハ来ル火曜日午後迄ニ我ニ之ヲ
告ケ来ルヘシ又日本ノ官人強テ阿丹ト浦賀
ニテ會議セント欲セハ此等ノ丁ハ敢テ我ニ
害アラストス且其時ニ至ラハ日本ノ官人應

接ノ為ニ阿丹ヲ迎ヘ来レリトイフ證書ヲ携
一誘導スヘシト

日本ノ官吏此書ヲ受テ既ニ出ントセシ時又顧
テ阿丹ニ問テ曰、去歲我長崎港ニ霸^{ダイ}當^リセシ和蘭
人ニ托シテ我官吏ノ書ヲ提督ニ送リタリシガ
此書其時既ニ達セリヤト阿丹曰余ハ此等ノ丁
ニ関ハル任ニ非サレハ達セリヤ否ヤヲ知スト
斯テ日本ノ官吏ハ船中ニ別テ告ケ出テ去リケ
リ○此日彼理又小舟ヲ出シ漸ク進ミテ江戸ノ
内海ヲ測量セシメタリ如此小舟ノ本船ヲ離レ

テ遠地ヲ測量スル時ニハ莫アルニ臨テ宜ク之
ヲ本船ニ報スル丁ヲ要スレ共遠地ノ往来ハ大
ニ時刻ヲ費セリ是故ニソウハタン船ヲ出シテ
常ニ小舟ノ傍近ニ浮ヘシメ以テ速ニ本船ニ報
スヘキ為ニ備ヒシメタリ○翌^翌第二月十九日ハ日
曜日ニシテ亞米利加船中奉テ休息スヘキ日ナ
ルニ日本人之ヲ知ラス又ポーハタン船ニ来レ
リ是ニ於テ我徒日本人ニ告テ曰、今日ハ恰モ日
本ノ祭日若ハ式日ノ如キ日ナレバ我船中ノ衆
人皆其務ヲ廢シ休息セリ然レ共是下等今日ノ

悪キ天気ヲ侵シ遠ク我船ヲ訪ヒ来リタルヲ以
テ應答スベキトアラハ告ラルヘシト云ヒケレ
ハ日本人野菜鶏卵共ニ菓子数品ヲ提督ノ病快
復ノ慶嘉ヲ表スルトテ携へ来レリ今阿丹其價
ヲ償ハント欲スルモ日本人之ヲ受ケルヲ察シ
物品ヲ取テ之ニ共へバ彼必ず辞スル丁ナカラ
ント思ヒ蒸餅及ヒ茶茗若干ヲ取テ報禮トシテ
日本人ニ共へタリ○亞人又日本人ニ問テ曰、前
ニ告ル所ノ意ヲ日本ノ高官ニ建白セシヤト曰
本人答テ曰、提督ノ意ヲ以テ我高官ニ告タルニ

高官ハ亞國ノ使節ニ對遇スルハ浦賀ヲ除ク、外
他ニ地ナシトイヘリト此時亞人又嚴ニ日本人
ニ謂テ曰ク浦賀ニ歸ル丁ハ前ニモ屢々告ル如ク
我提督ノ好マサル所ナリ日本人ノ曰、彼地ハ我
國王ヨリ外国人ニ應接スルノ地ト定メラレタ
ル所ナレハ今之ヲ易ル丁能ハスト阿丹ノ曰、浦
賀ハ提督ノ誓テ兼諾セサル所ナリ是故ニ前日
提督ヨリノ書簡ニモ余ト貴國ノ高官ト一タヒ
會合シテ我提督ノ應接スヘキ地ヲ定メン丁ヲ
告ケ又来ル廿一日既ニ火曜日ナルガ日本ニテ

ハ彼ノ書簡ノ報答、如何セントスル意ナリヤト
日本人又夕初ノ如ク浦賀ハ我カ国王ヨリ定メ
ラレタル地ナレハ易ル丁能ストイヒテ帰リ行
タリ○翌日日本人牡蠣ヲ我提督ニ呈セントテ
齎シ来リ且高官ノ書簡ヲ携へ来リテ提督ニ送
レリ此書簡ハ和蘭文ニテ記セリ其文ニ曰ク
今我国王ヨリ嚴命アリテ余等將軍ト相見ル
ノ地ハ浦賀鎌倉ノ兩地ト定メラレタリ余等
大ニ心思ヲ勞シ兩國ノ平和ヲ謀リ將軍ノ期
望ヲモ参考シテ其意ニ從ハント欲スレ共國

王ノ嚴命背クヘカラス是實ニ我誠意ヲ述ル
所ニシテ敢テ詭詐ヲ設ルニ非スト
五人徑ニ此書ヲ彼理ニ呈スレハ彼理之ヲ見
テ即時ニ復書ヲ作レリ其文ニ曰ク
公等徒ニ収々支理ヲ述ルト余浦賀ハ我好マ
サル地ナレハ速ニ江戸ニ赴キテ後我カ大統
領ノ返簡ヲ受ント
日本人此復書ヲ取り高官ニ附共セントテ携へ
帰ラントセレ時阿丹日本人ニ告テ曰ク我レ吾
提督ノ命ヲ受ケ浦賀ニ往テ日本ノ高官ニ面晤

レ仔細ニ提督ノ意ヲ告ント此時日本人明日阿
丹浦賀ニ来ラハ必ス衆兵ヲ師テアラキイセイニ示サ
ント思ヒ恐怖セル体ニ見ヘケル然ルニ阿丹明
日ハ唯兩三輩ヲ携ヘ行ヘント告ケレハ日本人
大ヒニ安意セシ体ニ見ヘタリ而シテ日本人イ
ヒケルハ我ニ在テモ小舟ヲ出レ以テ公等ヲ設原ノミ
ノ設ヲ為スヘント又此日ノ會話亞人告ルハ素
水曜日ハ我建国ノ始祖花盛頓ノ誕日ナレハ船
中ニテ祝祭スヘント此日日本人此夜ヲ聞キ水
曜日ニハ我船中ニ来リテ始祖ヲ祭ルノ儀ヲ見

ンテ望メリ是ニ於テ亞人此日ノ祭禮ハ實ニ
佳興アル丁ニテ壯觀ナレハ公等之ヲ見ト欲セ
ハ公等ノ細君ヲモ伴ニ来リ賜ヘトイヒケレハ
日本人大ヒニ笑ヲ催シ公等戲談シ賜フ丁勿レ
トイヘリ○既ニ弟二月廿一日即チ火曜日ニ至
リケレハ日本ノ官吏阿丹ヲ浦賀ニ誘引セント
テボボハタン船ニ来レリ是ニ於テ阿丹ハシタ
レ一船ニ乘リ彼理ガ書簡ヲ袖ニシテ浦賀ニ赴
キケリ書簡ノ文ニ曰ク

合衆國蒸氣軍艦ボハタン

紀元千八百五十四年弟二月廿日江戸アメリ
カンアンコルエーチニ於テ記ス

余容歳六月我大統領ノ命ヲ受ケ書簡ヲ携ヘ
来リテ日本ニ呈シ今我其復書ヲ得ヘキノ
時至リ近日之ヲ得テ使節ノ任ヲ全フセント
思ヘハ實ニ喜悦ニ堪ス然ルニ今余ガ帥ニ来
レル船隊ヲ安全ニ碇泊セシメント欲スルモ
浦賀港ハ實ニ甚ク不便ナリ是ヲ以テ余浦賀
港ニ帰ル丁ヲ欲セス益深ク江戸港ニ入シ丁
ヲ望メリ且余大統領ヨリ日本王ニ送ル敬器

ヲ携ヘ来リヌレハ實ニ以テ江戸ニ至ラン丁ヲ
欲ス又余今舟楫ヲ以テ日本ニ来レルハ日本
ト親睦ヲ結ビ交誼ヲ通センカ為ナレハ歐羅
巴諸州共ニ亞米利加ノ例ニ倣ヒ都府ニ於テ
應接セント欲ス日本ニ於テ何ゾ之ヲ拒ムノ
理アルヘキト思フナリ又我船隊江戸ニ至テ
碇泊スル時ハ必ス日本ノ官人等ヲ招キ亞米
利加ノ所謂蒸気船ヲ一覽セシメ其諸機等ヲ
運操シ以テ衆人ノ一見ニ供セン丁ヲ望メリ
今此書ハ我裨將阿丹ニ齎シテ日本ノ高官ニ

呈レ且阿丹ヲレテ今日日本ノ高官ニ見シム
ルヲ以テ宜レク此禱將ヲ誘引シ應接アラシ
莫ラ請フ恐惶敬白

合衆國水師提督 彼理

此日詰且ハ天气平和ニシテ波浪甚夕静ナリシ
ガ「^ガ」^{ハン}ダレ^レ一船ノ方^マニ浦賀ニ着セントマシ頃
ヨリ西南ノ風烈ク起リテ我^カハンダレ^レ一船之ガ
為ニ遠^キラレ浦賀港ニ達スル^ルヲ得ス之ニ由テ
暫ク^リユビゴシ岬^ナ此岬ハ^ハ西人ノ名ヲ下セ^レ地
セ^ハニ^ニ錨ヲ投レテ風ノ止ヲ待ケルニ終日強風

アリテ遂達スル^ルヲ得サリケリ其翌弟二月廿
二日ハ我始祖華盛頓ノ誕日ナレハ午後ハシタ
レ^レ一船ニ於テ大砲ヲ放テ祝祭ノ礼ヲ行ヘシ阿
丹ハ日本官吏廿名ニ誘ハレ^レハンダレ^レ一船ヨリ
浦賀ニ上陸シヌレハ数十名ノ日本人出テ阿丹
ヲ迎ヘ白木ニテ新ニ造リタル假屋ニ誘引セリ
トゾ○此時日本人阿丹ヲ誘ヒテ大約長五十餘
廣^ク四十尺餘可ナル假屋ノ客館ニ伴ヒタリ此客
館ニ敷タル者ハ乾草ヲ佳麗ニ編タル席タル席
ナリ此席ノ左右ニ長キ椅子ヲ設ケ赤布ヲ以テ

之ヲ覆ヒ又正面ニハ一脚ノ卓子ヲ居ヘ其上ヲ
縮緬ニテ覆ヒタリ斯テ官吏二名出テ来リテ阿丹
ヲ誘ヒ坐中ニ入り日本ニテハ左側ヲ以テ賓位
トスレバトテ阿丹ヲ左側ニ坐セシメ日本ノ高
官浦賀奉行等ハ皆右側ニ列坐シタリ此時阿丹
日本人ニ一礼ヲ施シ浦賀奉行等ノ坐スルヲ待
テ阿丹モ亦同ク坐ニ就リ亞米利加人ハ左側日
本人等ハ右側ト左右ニ坐ヲ占メ日本官吏ハ頭
ヲ低テ礼ヲ行ヒ又士卒五十名可其側ニ来リ將
官三人前行シテ之ヲ帥ヒ一字形ノ隊列ニ備ヘ

シメタリ○日本ノ高官等ハ金糸或ハ銀糸ヲ以
テ織タル長キ外套ヲ服シ威儀整然トシテ各坐
次ニ從テ着シ阿丹ト高官ト互ニ相ミルノ礼式既
ニ終リケレハ日本ノ辞ハ日本通辞之ヲ蘭語ニ
書テ我通辨官ポルトメンニ通レポルトメン徑
ニ又之ヲ英語ニ訳シテ我徒ニ通ス是ヨリ兩國
ノ人共ニ交和ノ談話ヲ始メタリ阿丹先ツ曰浦賀
ハ実ニ碇泊スヘカラサル港ニシテ船舶ノ風波
ヲ避ルニ甚不便ナリト日本人ノ曰然レ共此地
ハ我国王ヨリ台命アリテ貴國ノ提督ト應接スヘ

キノ地ト定メラレタリト是ニ於テ阿丹取テ後
辞ヲ交ル^レテ欲セス名利一葉ヲ出シ之ヲ日本
ノ高官ニ附與シタリ高官之ヲ取テ暫時席上ヲ退
クヘキ^レテ告ケ坐側ニ在ル帷幕ノ内ニ入タリ
此時日本ノ小吏出テ来リテ唐製様ノ茶碗ニ茶
ヲ酌ミ之ヲ席上ノ衆人ニ與ヘタリ既ニシテ日
本通辞亞米利加人ニ向テ饗應ノ甚タ野鄙ナル
ヲ述ヘ又問テ曰將官阿丹公ハ浦賀ニテ應接ス
ヘキ事ヲ兼諾アリシヤト是ヲ以テ之ヲ觀ハ日
本人等皆尚^ラ應接ノ地ハ浦賀ト定メ居タルト見

ユ又日本人ハ我船隊ヲ浦賀ニ居シメ風波ノ害
レ^レ船ニ伴ヒアニコルエ^レデニ誘ヒテ徑ニ我
提督ト論セレメント○林公ハ乃チ我提督ノ書
ヲ一見ヤントテ扶助ノ官吏ト共ニ席ヲ退キ去
レリ此時日本人ヨリ茶及凡百ノ菓子冰糖等ヲ
出シ次ニ酒ヲ出シテ亞人ヲ饗應セリ此間ニ乘
シ日本人談話シケルハ此新ニ作りタル假屋ハ
全ク提督ト應接センガ為ニ設ケタリト又浦賀
港ノ深淺及ヒ港内ノ險難ナラサル談話等ヲ為
リ日本ノ通詞モ亦浦賀ヲ應接ノ地ト為ント欲

レテ百^イ方ノ利ヲ説キ辞ヲ竭シ此港ハ船舶ノ碇
泊等ニ便ニシテ且甚安全ナル地ナリ提督若^レ速
ニ本港ニ来ラハ百^イ立地ニ辨シテ甚夕便利ナ
ラント阿丹ノ曰^レ若^レ今一タゴ日本ノ高官此坐ニ
復リテ浦賀ノ了ヲ説ニ於テハ即チ之ヲ我^ガ提督
ニ告ヘキノミト既ニ^レ日本ノ高官等坐ニ復リ
テ阿丹ニ告テ曰^レ余詳ニ提督書簡ヲ披見セリ然
レ共余ガ外ニ尚ヲ国王ノ命ヲ奉シテ外国應接
ノ為ニ本地ニ来ル者アリ其来ルヲ待テ之ト共
ニ論談シ而シテ後ニ復書ヲ送ラント阿丹ノ曰^レ

然ラハ今ヨリ幾日ヲ経テ此復書ヲ我ニ送フヘ
キヤト日本^ノ曰^レ今ヨリ三日ニシテ報答ヲ送
ヘント此時阿丹ノ曰^レ日本人常ニ甚夕遲滞シテ
速ニ^レ返ヲ辨マス我^レ甚夕之ヲ憂フ我提督モ亦之
ガ為ニ心志ヲ勞スルコト既ニ久シ今日モ天气
方ニ変セントシテ風雲ヲ催フヤリ本港ハ風波
ノ陰難アリテ久シク碇泊レ報答ヲ待ツ了能ハ
ス今我^ガ提督日本ニ渡来シテ應接セシ^ヤ返情ヲ記
シ速ニ我^ガ船隊ノ一隻ヲ撰ヒ本国ニ返シテ此^レ返
ヲ大統領ニ報復セント欲ス若^レ遲滞シテ後ニ歲

月ヲ費ス時ハ本国ヨリ又使船ヲ遣ラシテ我動
静ヲ問ヒ来ル丁アランモ計リ難シ務テ日本ニ
テ速ニ報答ヲ決シ賜ヘカレト本^コ日^ヒノ應接ハ是
ノミニテ終リケレハ日本ノ官人等又初ノ如ク
低頭ノ礼ヲ行ヒ共ニ袂ヲ分チ歸リタリ○亞丹
是ヨリハンダレ一船ニ歸ラントセシニ北東風
烈クテ波浪漸ク高ク起リケレハ阿丹暫ク歸船
ヲ止メ風ノ止ムヲ窺ヒタリ此間ニ乘シ阿丹其
近辺ヲ逍遙シテ日本ノ人家及ヒ地形等ヲ一見
セントセシガ共日本人ノ癖習ニテ陣舎ノ左右

ヨリ海岸ニ至ル迄陸續トシテ番兵ヲ連子其西
傍ニハ八尺可ノ幕ヲ張リタレハ之カ為ニ眺望
ヲ遮キラレテ縦ニ遊覽スル丁モ能ハサリケリ
此時山上ヲ仰キ見レハ浦賀ノ老少男女等丘^カ陵^カ
ニ登リテ望遠鏡ヲ携ヘ我徒ヲ見ル者多カリケ
ル又我徒前ニ休息シテ日本人ト會合ノ坐ニ残
リタル食物菓子ナトヲ紙葉ニ包ミ来リテ我徒
ニ贈レリ漸次ニ又風波モ静マリケレハ阿丹等
日本ノ扁舟ニ乗テハンダレ一船ニ歸レリ此時
亞人日本人ノ舟ヲ運操スルヲ見シニ其挙動ノ

巧ミナル丁ハ水手等少レモ衣裳ヲ濡サバルニ
テ知ルヘシ是畢竟楫ヲ用ニスレテ櫓ヲ用フルノ
利ナルヘシ楫ハ常ニ水ヲ汰レ櫓ハ常ニ水中ニ
没ス是故ニ高浪ノ時ニ楫ヲ用フレハ海水之ニ
激シテ船中ニ入ルノ害アリ櫓ヲ用フル時ハ此
害アル丁ナレ楫ノ代リニ櫓ヲ使フハ日本舟師
ノ精妙ナル所ト見タリ○翌弟二月廿二日阿丹
尚浦賀港ニ碇泊シタレハ今朝香山栄左工門阿
丹カ船中ニ来レリ此栄左工門ハ去年余等ガ浦
賀ニ来リシ時屢余等ニ應接シテ其交情浅カラガ

リシ人ナリ今余等復日本ニ来リシ丁ナレハ速
ニ栄左工門出テ来ルヘキヲ今日マテ遅延セシ
ヲ見ハ去年此人余等ト應接セシ丁ヨリ日本ニ
テ何ソ不雅ノ丁アリテ速ニ此人ヲ用ヒザリシ
丁ト見ヘタリ然ルニ栄左工門今船中ニ来リケレ
ハ主客久闊ニテ面晤シ共ニ別来ノ舊情ヲ展ヘ
無恙ヲ賀セリ阿丹栄左工門ニ向ヒ足下斯ク深
情ナルニ何ゾ来ル丁ノ晚キヤトイヘハ栄左工
門先日ヨリ微恙アリ加フルニ公夏繁冗ニテ意
外ニ足下等ト面謁ヲ遅延セリト答ヘタリ栄左

工門書簡ヲ出シテ今日未レル趣意ヲ述タル書
ナリトテ阿丹ニ與ヘタリ此書中ニ日本ニテハ
懇情ヲ以テ合衆國ト和親ヲ結ハシトテ謀リ浦
賀ニテ提督ヲ享セント定メタリ然ルニ提督浦
賀ニテ面會スルト肯ンセサレハ我カ國王モ此
莫ニハ實ニ痛心シ賜ヘリト提督我國王ノ厚旨
先ニ余等カ意ヲ察シ浦賀應接ノトテ兼諾アラ
ハ余等が大幸何莫カ之ニ如カン偏ニ將軍舊交
ノ情ヲ以テ余等カ心勞ヲ察シ宜ク此意ヲ提督
ニ報道シ浦賀ノトテ周旋シ賜ハルヘシ幾重ニ

モ將軍ノ諒察ヲ仰クト記シタリ乃チ榮左工門
此書簡ヲ阿丹ニ示シ且昨日提督ヨリ我高官ニ
與ヘラレタル書ノ復書ハ明日足下ノ船ニ送ル
ヘシトテ歸リ去ケリ○翌廿四日日本人書簡ヲ
携ヘ来テ提督ニ贈ラントイヘリ阿丹之ヲ取テ
緘ヲ開キ見ヨ書中ノ文ハ首ヨリ尾ニ至ル迄唯
浦賀ニテ應接セン浦賀ニテ應接セントノ書
キ連ネタリ是ニ由テ之ヲ視ハ日本人猶執拗物
浦賀ノ説ヲ唱ヘ遂ニ之ヲ達セント欲スルナル
ベシ阿丹此復書ヲ懐ニシ彼理カ碇泊セルホ

ハタンニ歸リケリ○彼理ハ阿丹ヲ浦賀ニ遣シ
其後ニテ深ク慮リシニ今日ノ應接ハ我ニ於テ
一ノ失計ヲ為タリ嗚呼我ナカラ弱キ應接ヲ為
レタリトテ遺憾ニ堪ガリケリ而レテ阿丹ハ亦
頓ニ歸リ来ラガレハ彼理モ益快トシテ鬱悶シ
是ニ於テ憤激シテ心ヲ定メ遂ニ軍艦ヲ進メテ
江戸海ニ入り日本人ヲ驚嚇シメ以テ我胸中ノ
鬱悶ヲ散ゼバヤト思ヒ諸軍艦ヲ深ク江戸海ニ
進メ漸ク近ツキ橋上ヨリ江戸ノ都府ヲ一望ス
ヘキ地ニ至リケレバ夜漏ヲ報スル鐘聲響々ト

シテ耳底ニ徹タリ阿丹ハ彼理カ深ク進ミ入夕
ルヲ知ラガリケレハ廿四日アンコルエーゲニ
歸リタルニ亞國ノ諸船遙進ミテ遠クアンコル
エーゲヲ離レタリ是ニ於テ阿丹モ亦翌廿五日
急ニ船ヲ進メテ彼理カ本船ノ側ニ至リ日本高
官ヨリ受タル復書ヲ出シ之ヲ彼理ニ呈ス彼理
取テ之ヲ觀ニ其書ニ曰ク

亞米利加合衆國水師提督彼理ガ足下ニ呈ス
日本國王ノ使節某貴書ヲ披キ詳ニ之ヲ閱ス
ルニ足下報答ノ意旨左ノ如シ即チ足下ハ政

羅巴荒ニ亞米利加諸州ノ例ニ倣ヒ必ス江戸
ノ都府ニ於テ余等ト應接セントノ丁ナリ此
實ニ理ナキニ非スト且日本ニハ又日本ノ
法アリテ外国ノ使節ト都府ニ於テ應接シタ
ル例アル丁ナシ故ニ今我國王官吏ニ命シテ
新ニ客館ヲ作り果等ヲシテ浦賀ニ至リ是下
ト會接セシム是我國王是下ヲ款待スルノ厚
意ナリ願クハ是下我國王ノ厚意ヲ察シ浦賀
應接ノ丁ヲ兼諾セラルベシ且是下時氣堅固
ニ自愛アルベシ

千八百五十四年正月廿七日 林 大學頭
香山栄左エ門亞丹ニ尾行シテ彼理ガ船中ニ至
レリ是大學頭ヨリ贈リタル報答ヲ得ンガ為ナ
ルベシ栄左エ門阿丹ヲ顧ミテ問テ曰、提督ハ未
浦賀應接ノ丁ヲ領諾ヤサリシヤ阿丹ノ曰、實ニ
然リ栄左エ門カ曰、若船中ノ費用缺乏スル者ハ
無ヤ缺乏ウノ物アラバ少しモ遠慮シ賜フ丁勿
何ニテモ周旋シテ必ス是下等ノ用ヲ辨ヤント
阿丹カ曰、然ラハ薪水ヲ少し惠ミ贈ラルベシト
栄左エ門大ニ悦ンテ曰、是甚タ容易ナル丁ナレ

共浦賀港ニ非ザレバ急ニ辨スヘカラズ速ニ貴
国ノ船ヲ浦賀ニ歸スベシト是ニ於テ阿丹師然
トシテ曰、貴国ヨリ薪水ヲ與ヘントナラバ冥ク
之ヲ我ガ船中ニ送ルベシ然ラスンバ我ヨリ小舟
ヲ出レ之ヲ貴国ノ海岸ニ送リテ受ンノミ我提
督ハ誓テ浦賀ニ歸ルノ意ナシ謾リニ誓言ヲ費
ス丁勿レト是ニ於テ榮左工門彼理ガ志ノ決シ
テ奪フベカラサルヲ察シタリケン再々浦賀ノ
吏ヲ言ス顧ミテ阿丹ニ謂テ曰、此近キ海岸ニ横
濱トイヘル地アリ提督浦賀ニ歸ル丁ヲ欲セガ

ル時ハ横濱ニ於テ我ガ高官ト應接セバ如何ト日
本人大約十日可浦賀ノ丁ニテ時日ヲ費シ種々
ノ應答ヲ為シタル共提督之レヲ兼諾セズ益意ヲ
固フレ應答セシ故ニ日本人提督ノ志愈奪フヘ
カラザルヲ諭リ遂ニ浦賀ヲ止メテ横濱ノ説ニ
変ゼシト見タリ提督書記官ニ命シ此丁ヲ記載
セシム其文ニ曰ク
提督ノ曰、余去歲ハ浦賀ヲ限リテ深ク江戸海
ニ入り得サリシガ今浦賀港ヲ越ヘテ深ク江
戸港ニ入ル丁ヲ得タルハ我今日本トノ應接

ニ於テ勝羸ヲ得タルノ微ナリ其初ハ日本人等
百方難支ヲ述ヘ余等ヲ要シテ浦賀ニ歸サン
トシタレ共遂ニ我志ノ奪フヘカラサルヲ知
リ浦賀ニテ應接ノ了ヲ止タリ是ヲ以テ之ヲ
觀レハ總テ外國ト應接スルニハ我言ニ理ノ
有無ヲ論ヤス一タビ吐タル言ハ到底マテモ
之ヲ固執シテ変スル了ナク其議論ヲ以テ善
トスベレ又應接ノ道ハ假令屢難事ニ遇ト虫
確然トシテ之ヲ忍ビ以テ其宿意ヲ達スヘシ
日本人ノ斯ク志ヲ枉テ我ニ從フハ後未永ク

合衆國ト和親ヤント欲スルノ意ナルベレ
莫是即チ我宿意ヲ達セシナリ○余世界萬國
ノ衆人ト交接シテ議論ノ輸羸ヲ試ムルニ唯
能ク本意ヲ立テ志ヲ養ヒ外人ニ辨駁セラレ
ザルヲ以テ百支ヲ成スノ根元トス凡ソ瑣々タ
ル議論ノ為ニ妨ケラレテ其本意ヲ達スル了
能ハズトスル者ハ是ニ共ニ支ヲ諷スルニ足サ
ル者タリ都テ外國人ト應接スル術ニ様アリ
一ハ禮讓ヲ以テシ一ハ威カヲ以テスヘシ是
誠ニ外國人ト交ハルノ大要ナリ夫レ日本ノ高

官等盛ニ衣冠ヲ修飾レ自ラ心ヲ尊大ニシ其
隸屬臣僕左右ニ侍リ之ヲ崇敬シ且之ニ諂謾
シラ首領常ニ地ヲ離レス是ヲ以テ高官タル
者ハ愈驕傲ノ心ヲ恣ニス然レ共今謾リニ我
ヨリ之ヲ賤ニスルハ甚タ不可ナリ只務メラ
之ヲ崇敬スルヲ善トスト至應接ノ時ニ當テ
ハ敢テ彼ガ威儀ニ屈セズ宜ク我胸中ニ於テ
彼ヲ蔑視スベシ今我武威ヲ以テ日本人ヲ伏
レ常ニ我大勢ヲ奮フテ百事皆其羸ヲ制セリ
故ニ日本人遂ニ我ニ服從レテ今日ノ復勢ニ

至リシナリ

阿丹榮左工門ガ言ヲ以テ彼理ニ報レケレバ彼
理カ曰然ラハ先足下等ヲ遣レテ横濱ノ地形及
ヒ海水ノ浅深ヲ検査セシメ其地形等我意ニ適
ハ乃チ之ヲ領諾セント夫ヨリ属將薄可南及ヒ
阿丹ノ兩氏ニ榮左工門ト共ニ横濱ニ往テ検査
スル丁ヲ命ズ薄可南等横濱ニ往テ地形ヲ點檢
セシニ海岸ヲ距ルコト大約一里可ニシテ船艦
ヲ碇泊スヘキ良港アリ又上陸スルニ宜ク諸夏
極ニ便利ナル地ナリ是ニ於テ薄可南等徑ニ小

舟ニ乗リテ本船ニ歸リ詳ニ之ヲ提督ニ報シケ
レバ提督此言ヲ聞テ此地殆ト我意ニ適ヘリト
稱レ即時ニ此意ヲ一紙ニ記レ林氏ニ送レリ其
書ニ曰ク

紀元千八百五十四年弟三月一日江戸港内横
濱ニ於テ記ス

我属将阿丹今足下ノ復書ヲ携ヘ歸リ余之ヲ
披見シテ今足下ヨリ榮左工門ヲ以テ横濱ニ
テ應接スヘキト先ニ浦賀ノ期ヲ緩テスル丁
ヲ我ニ告ケ賜ヒ詳ニ来意ヲ領養セリ抑此横

濱ノ地ハ破泊上陸等諸事極メテ便利ナル地
ナレバ此地ヲ以テ應接ノ地ト定メ暫ク江戸
ニ赴ク丁ヲ後ニスヘシ且横濱ハ余ヨリモ檢
査セシメシニ江戸ヲ距コト遠カラスシテ一
段ノ便利ナリ江戸港内ニハ後日我船舶ヲ進
メント欲ス前ニ貴国ノ衆人我蒸気船ノ機械
ヲ一見セン丁ヲ望ム者アリト聞ケリ他日若
我船江戸海ニ至リテ貴国ノ衆人未臨アラハ
必ス款待スヘシ崇敬謹白

合衆國ノ東印度支那及ヒ日本海ノ支務宰

相兼日本侯節水師提督彼理

林大學頭等四君呈ス

彼理前日ヨリ數隻ノ小舟ヲ諸所ニ出シ毎日江
戸海ヲ測量セシメタリシカ提督横濱ヲ應接所
ト定メタルノ報ヲ得テ皆本船ニ歸リ提督ニ告
テ曰、僕等江戸内港ニ近キ測量セシメ江戸ヲ距
コト亞米利加里浜ニテ大約四五里ノ所迄ハ海
水ノ深六尋ニ減セス自在ニ我軍艦ヲ浮フヘレ
是故ニ日本人尚、浦賀ノ説ヲ持重セバ我軍艦直
ニ江戸ニ進ミ入シテ恐レ急ニ横濱ニテ應接

セシテ報レ来リシナルベシ而レテ横濱ニハ則
本人材木等ヲ運ク匠工カ夫等ヲ多ク集會シテ新
館舎ヲ營リト是ニ於テ提督即時ニ薄可南及阿
丹ノ兩人ニ命シ横濱ノ海岸ニ上陸シテ其形情
ヲ窺ハシメタリ既シテ弟三月三日栄左工門提
督ノ船ホハハタシニ来リ大ニ痛心セラル体ニテ薄加
南及ハ阿丹兩人上陸シタル所以ヲ尋ズ此時提督
答ヘケルハ我今二將ヲ遣シ横濱ノ形情ヲ一覽セ
シメタルノミ決シテ謾リニ我將士ヲ上陸セシ
メ日本人ヲ煩サントノ意ニ非ズト是ニ於テ栄左工

門之ヲ聞テ始テ安心セシ体ニ見タリ○阿丹今
亞船ニ載テ来リタル日本人ノ書簡ヲ出シ榮左エ門
ニ興タリ中一人ヲ三八ト云前年十六人ニテ則
本船ニ乘リ颶風ニ逢日本海岸ヨリ漂流シケル
ニ幸ニシテ亞米利加ノ商船ニ邂逅レ誘ハレテ
三濟格ニ至リ夫ヨリ又アイルス各氏ノ指揮スル
合衆國ノ軍艦ニ在コト十二月ニシテ支那ニ至リ
此地ニ於テ又亞國ノ蒸氣船レエスコイハンナニ
乘リ去年提督ノ水軍ヲ領シテ日本ニ赴クニ當テ
エスコイハンナ船モ之ニ興レリ五人ノ曰ク日本ノ

漂人十六名皆方ニ提督ニ從テ日本ニ歸ルヘシ
ト是於テ日本人等皆曰余等日本ニ歸ラハ三八
ノ外ハ皆政府ヨリ誅戮セラルベシ特リ三八ハ
既ニ亞國政府ノ命ニ由テ水手ニ擢テラレタレ
バ日本政府モ謾リニ之ヲ如何共スルナカラ
ン余等ハ願クハ漢土ニ留リ以テ本国ノ誅戮ヲ
免レント是故ニ今三八ノミレエスコイハンナ船
ニ乘リテ日本ニ歸リタリ榮左エ門此書ヲ見テ
始テ其漂流シタル事跡ヲ知り大ニ驚キ三八ヲ
見ト請ケレバ阿丹曰近日三八ヲ呼テ足下ニ面

會^シセシムヘシト ○栄左工門等先ニ通詞數人屢々
我^カ船中ニ未往シテ横濱應接所ノ造營及ヒ會合
ノ諸式等ヲ商議セリ此日始テ我^カ船中ニ未レル
通詞一人アリ名ヲ森山栄之助トイフ僅ニ英語
ヲ用フル莫ク解セリ是^レ嘗テ我^カプロフル名船ノ
水手一名漂流シテ日本ニ至リシ時日本人彼ヲ
捕ヘテ函居セシメタリシ栄之助此時彼ノ水手
ニ就テ英語ヲ習学セシナリ此通詞等余等ト共
ニ屢々諸事ヲ談シ且横濱ニテ我^カ提督ト應接スヘ
キ日本^人ノ姓名及ヒ官爵等ヲ仔細ニ余等ニ告

タリ而レテ又此官人等今日本國王ヨリ賜リタ
ル教書ヲ携ヘ来リテ之ヲ余等ニ示シ以テ官人
等ノ我^カ提督ト應接スヘキ旨命ヲ蒙リタル證ト
セリ教書ノ文ニ曰ク
此回合衆國ヨリ来着マリ今汝等ニ命シ彼ニ
會合シテ應接スル丁ヲ掌ラシム相議レテ諸
事宜ク所置スヘキ者ナリ

嘉永七年正月 日本國王殿下
林大學頭
井戸對馬守

伊沢美作守

鵜殿民部少輔

栄左エ門曰、日本人ニ在テハ決シテ丑人ヲ蔑視
スルヲ意ナク頗ル信用崇敬スルノ意ナリト此
等ノ言ヲ以テ考フレバ今横濱ノ應接ニハ必ス
去年粟濱ニ會合セシ如ク兵卒ヲ出シ武器ヲ携
ヘテ守備スルヲナシト是ニ於テ余等栄左エ門
等ニ謂テ曰、此回ノ應接ニモ我提督ハ容歳ノ如
ク若干ノ兵卒ヲ帥テ上陸スヘケレ共日本對シ
戒心アリテ不慮ニ備フルニ非ス唯、丑國將帥ノ

儀容缺ヘカテサルヲ以テ畧兵卒ノ列ヲ備フル
為ナレハ日本人必ス之ヲ以テ意ト為スナカ
レト是ヨリ共ニ閑談ヲ為シ薪水食料等ノ了ニ
涉リ阿丹ノ曰船中ニテ是等ノ賤用ニ乏キ時ハ
偏ヘニ日本人ノ惠ヲ仰ント云ヘリ而シテ薪食
等ノ了ハ既ニ大統領ノ書中ニモ記シヌレハ栄
左エ門之ヲ追想シ今阿丹ニ向テ曰、貴國船舶石
炭ヲ日本ニテ求ムルニハ毎年幾干ノ量ヲ要ス
ルヤ阿丹ガ曰石炭ハ我今爰ニ幾干ノ量ト定ム
ルヲ能ハズ唯、丑船ノ日本海ニ来リシ時缺乏ス

ル量ニ從テ之ヲ求ンノミ且此時ハ我提督貴國
ノ高官ト會談ノ時口ツカラ之ヲ論スヘシ余今
之ヲ私談スルヲ要セス榮左工門又曰我國ニハ
多ク石炭ヲ産セリ之ヲ貴國ノ船舶ニ送ランニ
ハ貴國ノ船何レノ地ニ於テ之ヲ受ケ得ント欲
スルヤ阿丹ガ曰、亞國ノ船舶石炭ヲ受ケ得ント
スルニハ貴國ノ南海ニ於テスルヲ極テ便利ナ
リトス此談モ亦提督ノ公談ヲ埃ベレ阿丹ノ曰、
貴國ニ於テハ石炭何レノ地ニ産スルヲ以テ最
モ良種ト稱スルヤ榮左工門曰九州ニ産スル石

炭上品ニシテ其量モ亦頗ル多シ阿丹ノ曰日本
国内ニテ産スル石炭ノ總計毎歲幾干ナルヤ榮
左工門曰余未、其量ヲ詳ニスルヲ能ハス四國ニ
ハ絶テ石炭ヲ産ヤストイヘリ又曰貴國ノ船舶
ノ食料ニハ常ニ何等ノ品ヲ要スルヤ又何等ノ
物ニ乏キヤ日本ニハ小麦并ニ野菜ノ類ニ富リ
船中ニテ此等ノ物ノ乏キヲアリヤ無ヤト阿丹
曰、是下今枚舉ル所ノ物ノ如キハ我船中常ニ切
要ノ品ナリト榮左工門又曰是下等船中ノ食料
ニ供スヘキ物ハ我國ニ又牛肉豕肉薩摩芋并ニ

鳥類ノ肉ニ乏シカラスト亞丹曰此數品皆我々
切要ナル物タリ嘗テ貴國ヨリ魯西亞船ニ少量
ノ石炭ヲ送リタルトナキヤ榮左工門曰嘗テ魯船
ニ石炭ヲ送リシコトアリ阿丹曰貴國ノ石炭秀
品ナルトヲ聞ケリ榮左工門カ曰我國人之ヲ薪炭
ノ用ニ供スルト稀ナレハ其種品ノ善惡ヲ究ム
ル莫未^タ精密ナラス余近^ク日本船ニ來ルノ日少量
ノ石炭ヲ携ヘ來リテ足下等ノ一見ニ供ヤント
○前^キニサラドカ船ハ我^カ船隊ニ後レテ今日迄來
ラサリシガ此船忽^トトシテ弟三月四日我諸船

ノ碇泊所ニ未着シヌレハ其無^ク異^ニシテ未^レリ我
船隊ノ全備シタルヲ以テ奉^ル船皆喜悦ニ堪ザリ
ケリサラドカ船洋中ニテ大風ニ遇^ヒ大ニ困厄
セリトゾ此船ノ大風ニ遇^ヒ頃ハ江戸港ニテモ
烈風ナリシガ諸船深ク港内ニ錨ヲ投レタレハ
甚^クタ安全ナリキ斯^テ此大風忽^チ止^ミ俄^ニ黒雲
ヲ醸^シテ雪意ヲ催^レ寒風凜烈トシテ肌膚ヲ侵
シ亞船ノ衆人大ニ寒氣ニ苦^シミタリ然ルニ日
本人ハ生國ナレハ氣候ニヤ慣^レタリケン此寒風
ヲモ畏^レサルト見^ヘ亞船ノ近海ヲ經過スル則

本ノ小舟アリケルニ其舟師等ハ両肩ヲ袒キテ
半身ヲ露シ棹歌ヲ歌ヒ寒氣ニ苦シム風情モ無
ク櫓ヲ盪カシ舟ヲ走ラシテ海上ヲ未往セリ○漂流
客三八ニ命シテ日本官吏ニ面會セシメヌルニ
三八官吏ニ見ヘ願フ地ニ接シテ仰キ視ルコト
能ハス是ヨリ官吏ニ送ラレナハ忽チ首ヲ剔ラ
レシテ了ラ恐レ既ニ最後ノ時至レリト思ヒケル
ニヤ大ニ悲歎セル体ニ見ヘケレハ阿丹三八ニ令
シテ首ヲ擧ケ速ニ退カシメタリ是ニ於テ三八
退テ西人ニ告テ曰、我日本ニ歸ランヨリハ寧合

衆國船中ノ水手タランニハ心中懽樂ニシテ今
日ノ如ク死ニ瀕スルノ禍アル了ナシトテ決然
トシテ日本ニ歸ル了ラ願ハガリケリ阿丹モ現
ニ三八カ今日官吏ニ面謁セシ体ヲ見タリケレ
ハ其歸ル了ラ願ハガル情ヲ察シ又去歲漢土ニ
留メ置タル日本人ノ言ノ虚妄ナラサルヲ知り
彼等ヲ日本ニ歸ラシメントスル念ヲ止タリケ
ル○日本人ハ横濱ノ地ニ應接館ヲ營ミ諸吏ノ
設ケテ爲シ其了既ニ成リヌレハ榮左エ門ヲホ
シハダン船ニ遣シ言シメテ曰、西國ノ高官ノ會

合ヲ来ル弟三月八日ト定メタレハ貴国ニテモ
宜ク其装治アルベシト巫人ノ曰本日天氣朗晴
ナラハ我カ十二時ヲ期シテ横濱ニ至ルヘシト
是ヨリ栄左工門應接ノ吏ニ就テ種々ノ了ヲ高
議シ又巫人横濱ニ上陸ノ人負ヲ尋子タリ是レ人
負ノ多少ニ由テ饗待ノ設ケアルガ故ナルヘシ
而シテ巫人上陸ノ期ニハ日本ヨリ船ヲ送リテ
足下等ヲ誘導セシムヘシトテ辞シ別レタリ

是レ人負ノ多少ニ由テ饗待ノ設ケアルガ故ナルヘシ
而シテ巫人上陸ノ期ニハ日本ヨリ船ヲ送リテ
足下等ヲ誘導セシムヘシトテ辞シ別レタリ

